



秋
2020

vol 152

高崎観光

TAKASAKI

KANKO



OTOSHIBA
JIKODORI
STREET

ART PROJECT TAKASAKI 2020

進捗するアートの力



2015年に始まったアートプロジェクト高崎は、国内外で活躍する著名なアーティストから新進気鋭の若手、また地元を芸術の分野から盛り上げようとしている作家たちの優れた現代アート作品が一堂に会します。特に壁画という表現方法が注目されている今、高崎の街で表現ができたら面白いのではないか、もっと創造的で生き生きとした街になっていくのではないかという視点で、アートイベントが行われています。展示方法を工夫することで、歩くことが楽しく、明るい街となるように。その上で現代の美術表現を幅広く紹介するイベントとして開催されています。

令和2年 10月23日(金)～11月23日(月・祝) まちなかが満喫のアートスポットになる1ヶ月。

- ・西口ペデストリアンデッキ・モントレー壁面・高島屋2F入口・旭町ビル壁面・OPA大型ビジョン
- ・慈光通り・NODE33・慈光こども園・井上病院壁面・アイディーコート1F・丸善第一ビル
- ・金子園1F壁面・大手前通り歩道脇・タブノキ広場・飛龍の松前広場など

6回目の開催となるアートプロジェクト高崎。今回のテーマは「進捗するアートの力」です。

これまでとは違う生活様式が求められている今、当たり前と思っていたことが当たり前でなかったことに気づき、また、自分が支えられていたことや人との繋がりというものを不思議なほど強く認識させられるようになりました。そしてまた、あらゆる芸術というものが、私たちの生活に深く根を下ろし、少なからず影響を受けていた自身に気づかされた方も多いのではないでしょうか。この目に見えて変化した日常の中で、アーティストの創作意欲はこれまで以上に増幅し、更なる可能性を抱いて結実。生み出された作品は、きっと私たちの力となってくれます。アートが強力に発信するメッセージを、既に研ぎ澄まされた私たちの感性は今までとは異なる受け止め方ができるに違いありません。

今年のアートプロジェクト高崎は、新しい日常で、新しい気持ちでアートに触れ、向き合い、存分に浸ることのできる1か月間です。この高崎駅周辺という限定された小さな都市空間で、驚くほど広く大きな世界に出会えるかもしれません。自分だけの自由な受け止め方で、実はたったひとりの自分に向けて特別に届けられるメッセージを、街に拾いに繰り出してみませんか？大きな旅に出かけられなくても充分、大きなパワーを手に入れられる、またとないチャンスです。

INTERVIEW

今年のアートプロジェクト高崎について、主催である高崎アートインキュベーション推進会議の石田安利会長にお話を聞きました。

6回目の開催となるアートプロジェクト高崎は、毎年少しづつ変化をしながら続いている。今年は新型コロナウイルスの感染拡大により対人距離などの問われるなかでの開催となります。特に屋外の展示にこだわり、街のなかでアートに触れることができ、密になれない時代に心を和ませる展示ができればと思っています。また、主催側だけでなく見た方も発信者となって全国、世界へ高崎のアートが発信ができたらと考えています。昨年とは違ったところを受け取ってもらえる展示にして、毎年趣向を凝らして継続してゆくことが大切だと思っています。

発見！注目のアーティスト

今年のアートプロジェクト高崎に参加のアーティスト3人に作品や制作についてお聞きしました。



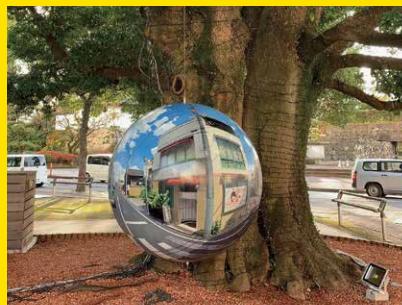
昨年の作品

01

タムラサトル Satoru TAMURA

場所：大手前通り歩道 (MAP:15)

制作するとき、目標や主張を設定したりしていないか、任意・偶然いずれの場合にしても何かをあらわすための手段になっていないかどうか熟慮します。作品そのものが目的となるように。展示を構想するときは、その場所の最も大きな要素を探します。そして、それを利用します。屋外、秋の高崎慈光通り。何をどうしようと目に入ってくる要素が多すぎて困惑ましたが、この場所・状況からできるだけ遠いものを、展示することにしました。それが、去年の回転する3頭のシカであり、今年の震えるサメなのです。



昨年の作品

02

鮫島大輔 Daisuke SAMEJIMA

場所：モントレー西壁面 (MAP:1)

日常の風景の視点を変えて見せる画家として活動をしています。誰もが既視感を覚えるような、全國どこにでもある匿名の場所を題材に作品を描いています。昨年のAPTでは高崎市内の日常風景を巨大な球体に360°描き、高崎の日常のなかに設置しました。日常も視点を変えれば非日常へと変わります。APTに関わらせていただいて、何度も足を運ぶうちに高崎が観光地や遠い場所ではなく日常的な場所になってきました。今回は前回とアプローチ方法を変え、葛飾北斎が描いた「勝景奇覧・上州榛名山」から着想を得た作品を描きます。



〈街の隙間〉557.5×678cm／壁にアクリル絵具 2012年／撮影：笠木靖之

03

吉野もも Momo YOSHINO

場所：丸善第一ビル壁面 (MAP:11)

視覚的なしきけを用いて、絵画と空間の関係性を探求しながら制作しています。立体的に見えますが、実際は平面です。奥行きを描くことで、絵が既存の建物と干渉し合い、外側へと拡張していく、空間全体が作品になり、鑑賞者をも取り囲むような作品を目指しています。今回、丸善第一ビルさんに15mほどの壁画を描きます。約1ヶ月の滞在制作。アートプロジェクトには初めて参加させて頂きますが、高崎には不思議なご縁を感じています。作品が、街を少し明るく照らすような存在になってくれればと願います。

7 力石 咲

● 慈光通り

1982年、埼玉県生まれ。「世界を編みくるむ」というミッションを継続中の、ハイパー・ニット・クリエイター。APT2017に参加。空き店舗の展示と街中をカラフルに楽しく編みくるんだ。



7 平岩 葉子

● 慈光通り歩道の花壇

1984年東京都生まれ。桐生市在住。多摩美術大学工芸科陶專攻卒業。東京芸術大学大学院陶芸専攻修了。人間をモチーフに内面や心情、どこかにいそうなあの人をテーマに彫刻作品を作成。



8 キール ハーン

● 慈光こども園

1978年アメリカ・ミズーリ州生まれ。2001年トルーマン大学卒業。22歳で初来日し、2013年からは群馬県藤岡市鬼石でアーティスト・イン・レジデンス「シロオニスタジオ」を経営。



8 圓山 和幸

● 安国寺テナント

1976年生まれ。2002年多摩美術大学美術研究科絵画専攻版画研究領域修了。2011年より群馬県桐生市に移住し、忘れた物語や記憶、それに関連する桐生の絹織物のルーツを探る作品を制作。



9 衣 真一郎

● 井上病院

1987年群馬県生まれ。東京造形大学絵画専攻卒業、パリ国立高等美術学校交換留学を経て、2016年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。榛名湖アーティスト・レジデンス常駐職員。



9 川島 一恵

● 井上病院

1984年群馬県富岡市出身。今回は山で切り倒された様々な木々から新しい木を作り出し、葉には生命が増殖していくイメージで描いた絵をプリントする。力強く生命が再生する様子を表現する。



10 高橋 洋直

● アイディーコート 1F

1987年栃木県鹿沼市に生まれる。2009年文星芸術大学美術学部彫刻専攻卒業。日常に使われるものから虫などをモチーフにした立体作品を発表している。APT2019に参加。



11 吉野 もも

● 丸善第一ビル壁画

1988年東京都生まれ。2012年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。2014年ロイヤルアカデミースクール交換留学を経て2015年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修士課程修了。



11 福田 絵理

● 丸善第一ビル 1F

1988年東京生まれ。2013年 武蔵野美術大学造形学部油絵専攻卒業。2015年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。榛名湖アーティスト・レジデンス常駐職員。



11 津久井 ひとみ

● 丸善第一ビル正面看板

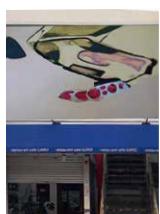
群馬県桐生市在住。旧山田かまち水彩デッサン美術館元代表、広瀬毅郎氏に師事。実在する場所や人物から、心に浮かんだストーリーを表現した絵画を制作。今回、楽園に見立てた高崎市を表現。



12 岸 恒平

● CARO 2F

1978年群馬県生まれ、2006年東京芸術大学油画卒業。十代後半、高崎で美術を学ぶ。自動車やバイク、と日本美術の要素を構成のきっかけにして、メタリック塗料などで平面作品を制作している。



12 温井 大介

● CARO 3F

群馬県生まれ。藤岡市在住。高崎で美術を学ぶ。東北芸術工科大学卒業選抜賞受賞。群馬県を中心に作品を発表、展示のキュレーションを行う。今回の目標はがんばって良い絵を描くこと。



13 TAKU

● 旧デキシーズ横トンタン壁画

2001年生まれ。群馬県高崎市出身。中学生時代、父と訪れた高崎市内のマイクロブルワリー(シンキチ醸造所)において、コピー用紙に油性マジックペン(マッキー)で絵を描き始める。



14 遠藤 夏香

● 金子園茶店

1984年群馬県生まれ。2010年武蔵野美術大学大学院造形研究学科油絵コース修了。制作する場所の過去や痕跡、現在そこにいる人間の言葉や物語をきっかけに身体的・直接的なアプローチでイメージと空間を作る。



15 タムラサトル

● 大手前通り歩道脇

1972年、栃木県生まれ。1995年、筑波大学芸術専門学群総合造形専攻卒業。なんの背景ももたない、思想的に真っ白な作品をめざし、意味の破壊をテーマに作品を制作。2017・2019年のAPTに参加。



16 17 茂木 康一

● タブノキ広場または飛龍の松前広場

1973年高崎市生まれ。1991年独自に金属加工を始め、独創的な作風を獲得。自然界の形美に興味を持ち、幼少期より続く日々の観察で詰め込まれた膨大な形を自身の曲線として表現している。



18 根本 剛

● OPA 大型ビジョン

1975年生まれ桐生市在住。武蔵野美術大学造形学部卒業。個人表現から商品企画、企業広告、ワークショップ、デザイン教育まで活動は多岐にわたる。今回はアニメーションにて『happy yellow』な世界を届けたい。



18 阿部 浩之

● OPA 大型ビジョン

1985年栃木県生まれ。東京都在住。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻修了。滞在した地域で出来事や記憶を調査しながら、外部からやってきた人のあしあとを追いかけて制作を行なう。



\ 東口側にもある！ /

THE ART PARK

高崎駅東口にある立体駐車場。今年の7月にOPEN。APT2020にも参加しているフランキー・スィーヒが描いた壁画があります。



APT
ART PROJECT TAKASAKI



【お問い合わせ先】

アートプロジェクト高崎事務局(ラジオ高崎内)

TEL.027-322-9195

<http://taka-art.jp/2020/>



今年はスタンプラリーによる開催が決定しました！

第12回キングオブパスタ2020

高崎市のもてなし広場で開催され、1日に1万人以上の人を集める人気のイベントであるキングオブパスタですが、今年は新型コロナウイルスの感染予防の観点から設営という形での開催を変更しスタンプラリーによる投票となります。イベントの性質上、密が避けられないことや飲食を伴うことでの感染リスクを減らすことを考え、例年と同じ内容での開催から参加者が店に足を運ぶ形での企画に変更となりました。

開催期間中は参加店舗のすべてにスタンプラリーの台紙が置かれ、記入後にそのまま投函できるので誰でも気軽に投票ができ、ひとり何票でも応募可能です。参加して投票した方の中から、参加全店舗で使える5,000円のお食事券が抽選でプレゼントとなるのも嬉しい企画です。

参加者が期間中何度も店に足を運ぶ形となることでお店の雰囲気も含めて味わうことができ、例年とは違った見方での投票ができるることは大変に興味深く、投票時にお店に対しての応援ができることも嬉しい企画です。

パスタを通じた高崎の食文化の発展を図ることを目的としてきたキングオブパスタで、コロナ禍であっても高崎のパスタ店を応援できる企画です。今年もこのイベントを盛り上げて楽しく応援したいと思います。

【開催期間】2020年10月16日(金)~11月30日(月)

●**参加方法：** 参加店で対象メニューを食べ、スタンプラリー台紙にシールをもらってください。台紙1枚につき2店のシールが集まったら、郵送にて投票できます。

●**参加特典：** 投票してくれた中から抽選で40名様に、参加店全店で金券として使用できる5,000円分のお食事券をプレゼント。

《参加店舗》

- アートマルシェ チーム アル・ケッチャーノ (高崎市役所21F)
- CAFE&BAR ESSENCE (通町34)
- カフェ・ド・プランタン (片岡町3-24-1)
- GARDEN PARTY cafe+kitchen (栄町15-15)
- ギミーパスタ 新紺屋町店 (新紺屋町16-1)
- ごはんとお酒 西口18番 (八島町70-29)
- サ・ジョージアンハウス 1997 レストラン・シーニュ (江木町412-1)
- シャンゴ 本店 (問屋町1-10-24)
- シルクロード 石原店 (石原町3220-1)
- 炭火焼ワインバル Lom 高崎店 (連雀町4-4)
- 高崎カメレオン (通町39-1)
- 高崎 Ring Road (筑縄町47-10)
- 小さなパスタ屋マカロニ (井出町628-3)
- TIGA 矢中店 (矢中町181-1)
- トラットリアバンビーナ 中居店 (中居町3-7-18)
- ホワイトイン高崎 Thrush Café (赤坂町94)
- ラビッシュ (貝沢町1274)
- room's (鞘町1)
- レストランカフェカーロ (連雀町25)

※事前の予告なく期間を変更したり、また開催そのものを中止する場合もあり、その際は公式ウェブサイト、SNSなどで告知いたします。

●お問い合わせ

キングオブパスタ実行委員会事務局

〒370-0849群馬県高崎市八島町265

TEL 027-323-2868 FAX 027-325-5201

<https://www.kingofpasta.jp> / E-mail info@kingofpasta.jp

【開催期間 2020年11月21日(土)～2021年1月3日(日)まで】

あふれる光を楽しむ、冬を鮮やかに彩るイルミネーション 高崎光のページェント2020



今年で27回目を迎える高崎光のページェント。大人から子どもまで年齢を問わず楽しめる光の演出が高崎の街に広がるイベントです。

シンフォニーロードには定番となったワイングラスを形どったシャンパンゴールドの光があふれ、慈光通りには変化する色彩の光のアーチが、華やかに通りを彩ります。この二つの通りは、車からの眺めも素晴らしい、カーブや角を曲がった瞬間に見えてくる無数の光には心躍る驚きがあります。

お堀にもエリア分けにされた趣向を凝らした演出があり、光の樹木やボールが水面に浮かんでいたり、春は桜が舞い散る水面に光が映る、冬にしかない風景が楽しめます。

恒例となった市内の保育園・幼稚園・認定子ども園の園児たちが作った光のキャンバスの展示は楽しみにしている方も多いでしょう。この時期限定のキラキラな風景が今年も楽しめます。

●お問い合わせ

高崎光のページェント実行委員会事務局
TEL 027-330-5333(一般社団法人 高崎観光協会内)

【開催日 2021年1月1日(祝)・2日(土)】

お正月1日・2日は高崎西口駅前通りの 高崎だるま市で1年の幸せを願う

二百年以上の歴史を誇る伝統工芸品である「高崎だるま®」は、顔に日本の吉祥である鶴亀があしらわれており、縁起物と言われ福を呼び込みます。

「高崎だるま市」ではそんな縁起のいいだるまに、日本で一番早く出会えます。

2021年の開催については、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、感染状況等を踏まえた上でホームページなどでお知らせしていきます。状況の悪化等による中止や変更もありますのでご了承ください。

●お問い合わせ

高崎だるま市実行委員会

TEL 027-330-5333(一般社団法人 高崎観光協会内)





端々にこだわりを感じる 職人気質のドイツパン シュヴァイン

- [PICK UP] ●シナモンドーナツ 1個 120円(税別)
●アーモンドパイ 1切 210円(税別)

創業当時、とても目新しかったドイツパン

今回ベーカリー探訪第2回目にご紹介する「シュヴァイン」は、今から21年前に創業したドイツパンのお店です。

今や粉にこだわりを持った本格的なパン屋さんは、少ないながらもずいぶんとお目にかかる時代になりました。ですが、シュヴァイン創業以前は美味しいドイツパンなど、見渡す限りほぼ皆無。シュヴァインは、雑誌やテレビでしか見られない、流行先駆けのパンが町のお店で買える驚きがあったり、県外まで出掛けてやっと見つける高級パンが、良心的な値段で簡単に手に入るという喜びもあったり、地方都市高崎にあってはとても珍しい貴重なお店だったのです。そして、シュヴァインのつくるパンは、もちろんぶどうからじっくり起こす自家製の天然酵母、そして創業以来ずっと、全国の本格的パン屋さんの中にもあって、一線級の味を保ち続けています。

ご主人は鎌倉市にあるベルグフェルドというお店で修業。開業以来、ハード系ドイツパンだけでは足りないと、オリジナルで甘系のパンやブタさんシール付のクッキー、ちょっとおしゃれな総菜パンなど、リビーターを飽きさせないたくさん種類を毎日用意しています。ですから、お店の名前の上にはちゃんとドイツ式にベックライ&コンデトライ、『パンとお菓子のお店』と書いてあります。

シュヴァインは高崎駅から自転車でも行ける、わずか東へ2kmほどの中居町にあります。古木のぬくもりを感じる建物に、赤いひよけテントが印象的なこじんまりとしたお店です。トレードマークは、可愛らしいブタさん。シュヴァインって、ドイツ語で、ブタなんですよ。幸運を呼ぶと言われているブタさんマークの笑顔に惹かれ、そこかしこにあるブタさんたちの置物に心なごまされ、ほっこり幸せな気持ちになってパンを選べます。

勝手に推しのセレクトパン

種類の豊富なパンはすべてがおいしくお薦めなので、どれが一番と決める必要もありません。ですので今回は思い切って正統派をはずし、案外知らない顧客もいるかもしれない、パン屋さん紹介でありながら敢えて選んだスイーツ系2点を紹介いたします。

まずは、「シナモンドーナツ」。死ぬ前に何か食べる所したら、これしかない!とファン一押しの、これぞという逸品です。ドーナツは揚げ方が難しいはずですが、これはからり、さらり。中は実はパンなのですが、そうパンドーナツです、パンに油がしみ込んでいないのです。余分な油がじわわーと出てこない仕上がり具合は長年ひたすら作られてきた職人で



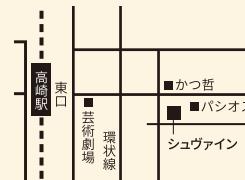
あるご主人のレベルの高さをそれだけでも感じます。きれいに揚がった外側にシナモンシュガーが品よくまぶされていて、甘さの程よいところがポイント。そして一口かじるとふんわりながらしっかりとした弾力のパンが、思った以上に大きく感じてつい口に押し込み思い切り頬ばってしまいます。試しに食べやすく4つか6つに切って、その感覚を味わってみてください。何の気なしに食べても、飲み込んだ後に控えめな干しぶどうのやさしい甘みと酸味が心地よく口の中にひろがっていて、ハタとそのおいしさに気がつき、また一口たべたくなる。そんな唯一の完璧なドーナツです。

2点目は「アーモンドパイ」をご紹介。名前はよくある名前ですが、こんなアーモンドパイ、他には絶対にありません。パイは皮が命、もちろんそこは抜かりなく長年お店で愛用してきたカルピスバターを使い、サクッと美味しい皮に仕上がっています。平たいホールケーキを等分に切ったかたちで、上に載っているスライスアーモンドは良質。そのパリッとした食感の下にアーモンドペーストがしっかりとつまっていてやわらかく、味に広がりをもたせたパイに仕上がっています。ナツツ類はあじけなくて嫌いという既成概念をお持ちの方は、是非ともお試しを。これはまるで別物です。

是非、皆さんも、今回のオススメを参考に味わって、さらにお気に入りの味を見つけてみてください。じっくり味わえば味わうほど、幸せをかみしめることができるはずです。

伝わってくるご主人の想い

天性の職人であるご主人が、頑なに正統派ドイツパンだけをつくるのではなく、こだわりは持ちながらも望まれるものを探してきましたからこそ、地元の方々、遠くからのお客様にも愛され続けてきたのでしょう。いつのまにか21年という月日が経ちましたが、ずっと変わらずまじめにパンを作り続けているご主人の姿を中心でお客様が賛辞を送り続け、また寡黙さゆえに何も言わないけれども、ご主人はそのお客様ひとりひとりに最高のものを提供することをしっかりと応えてくれています。どうぞシュヴァインの世界に、皆さんも足を踏み入れてみてください。



【ベックライ&コンデトライ シュヴァイン】

- 高崎市中居町1-7-5
- TEL 027-353-8575
- 営業時間: 9:00~19:00
- 定休日: 火曜日



高崎観光協会 会報 秋号 Vol.152 令和2年10月1日発行

発行 一般社団法人 高崎観光協会

高崎市八島町222(高崎モントレー2階) Tel.027-330-5333

<http://www.takasaki-kankoukyoukai.or.jp>

制作 株式会社原人社

AUTUMN
2020

